

令和6年度 第2回学校運営協議会記録

令和6年12月6日(金)

9:15~10:30

【出席者】

- ・委員(14名中12名出席)
吉利会長 小椋委員 片山委員 桑本委員 小延委員 高田委員 竹本委員
難場委員 星川委員 本田委員 森委員 中村校長
- ・教職員(計11名出席)

1 開会(会長より挨拶)

先日文化祭含め、地域との連携が更に深まってきている。

本日の会を通して加速が図れるよう、それぞれの立場からお話を、よろしくお願いします。

2 報告と協議

①高等部 地域の企業と連携した授業

- ・ジョブマッチングの取組として行った企業との面接体験について報告。
- ・会のねらいや講師および事業所の紹介、質問事項、講演内容の紹介(障害者雇用の実際、学校で身に付けておいた方がよいこと、ワールドACの取組、レーサーの試乗体験、メダルの紹介)等について説明した。
- ・生徒からの質問は、障害者雇用や採用について生徒が疑問に感じていることや知りたいことを事前に考え、当日に生徒が面接形式で質問し、講師に答えていただくようにした。
- ・この取組による学びの成果として、生徒からは、「雇用について疑問が解決した」、「在学中に身に付けておいた方がよいことなど、すぐに実践していきたい」、「来年は模擬面接をやりたい」等の感想が出て、障害者雇用についてイメージをし、自分が取り組むべきことを考えることができた。

②中学部 地域の方と連携した授業

- ・総合的な学習の時間に「グリーンシャワー公園の楽しみ方を提案しよう!」という地域の資源や人材を活用した学習について報告。
- ・以前は学習の場として多く使われていたグリーンシャワー公園が、コロナ禍を経て活用頻度が減ってきており、中学部の生徒からよく分からない場所という意見が挙がっていたことから、グリーンシャワー公園の季節ごとの楽しみ方を考えるという学習課題を設定。実際に自分たちで遊びながら、楽しめた活動を中学部の友達や他学部の友達に提案しようという学習に取り組んだ。文化祭では、季節ごとの楽しみ方の提案について生徒がまとめ、発表した。
- ・この学習の一部として、秋の遊び「秋のグリーンシャワーコンサートをしよう!」という単元を設定し、地域の方に協力していただいた。この方は事前に依頼していた講師ではなく、グリーンシャワー公園で活動するうちに出会った方で、グリーンシャワー公園で二胡を練習されている際に生徒が声をかけ、一緒にコンサートで演奏していただけることになった。
- ・その中で、教えてもらった二胡について調べてスライドにまとめたり、コンサートに向けて三線の練習に取り組んだりした。また、プレゼント用のマグネットを木で製作したり、司会の言葉を考えたりするなど、コンサートの成功に向け、必要なことを教師と話し合いながら生徒自身が課題を設定していき学習に主体的に取り組むことができた。
- ・文化祭後、高島公民館に生徒が制作したコンサートの様子の掲示物を掲示していただき、二胡奏者の方にも見ていただくことができた。
- ・生徒の思いを実現するために、二胡奏者の方にはたくさんのご協力をいただいた。突然のお願いにも関わらず、快く引き受けていただき、ありがたかった。地域の方にご協力いただくことで、教員の力だけでは実現できなかった学習が実現できた。どの教員も生徒の思いの実

現のために、日々努力しているが、校内の力だけでは、実現が難しいこともある。地域の方々の幅広い専門性、力をお貸しいただけると非常にありがたい。

③小学部 地域の方と連携した授業

- ・総合的な学習の時間の取組について、地域の人材を活用した授業について報告。
- ・年度初めに、総合的な学習の時間でどのようなことに取り組みたいか子供たちの意見を聞くことで、興味のある岡山の文化・環境・福祉などのテーマについて設定し、意欲的に取り組める活動にした。出た意見は、岡山の環境については地元の野菜を育てて食べてみたい、岡山の文化については備前焼について知りたい・作りたいという意見が多く、前期はこの2つの活動をメインに取り組んだ。
- ・岡山の環境：黄ニラ大使の方と交流を行った。事前学習では、野菜を育てるうえで気になることや、もっと聞きたいと思ったこと等を子供たちと考え、目的意識を持って取り組むことができるように準備をした。交流当日は夏野菜と一緒に植えたり、育て方のポイントを聞いたり、自分から質問するなどして主体的に取り組むことができた。
- ・本取組では、子供たちから多くの疑問が出て、それを黄ニラ大使の方にインタビューしたり、インターネットで調べ学習を行ったりする等して、探求的な学びができた。現在も、来年の秋に収穫できることを目標に児童たちが自分で役割分担をして毎日水やりや様子の観察をしている。加えて、自分たちで育てた野菜を使った調理実習のメニューを考えて栄養教諭の先生に相談したりするなど、発展的な学びにもつながった。
- ・岡山の文化：備前焼については、2組の講師の方をお招きして子供たちと学習した。
1組目は岡山県立博物館の学芸員の方。備前焼を見たり触れたりする体験、備前焼の歴史について学ぶ出前授業をしていただき、備前焼の模様から分かる年数や、備前焼と他の焼き物の違いなどを教えていただいた。2組目は岡山県立美術館の方と、備前焼作家の方とスタッフの方に、備前焼作りの出張講座をしていただいた。備前焼に使う土作りから焼くまでの工程の説明、電動ろくろを使って備前焼を作る実演をしていただき、備前焼作りも体験できた。講師の実演を見て、難しそうな電動ろくろもやってみたいという子供たちが多く、どんな作品を作りたいか講師に思いを伝えて一緒に作品を作ることができた。作った作品は県立美術館に展示されることになり、岡山の文化により興味をもつきっかけになった。岡山のものをもっと広めたいと活動している人たちの熱い気持ちも伝わり、普及活動の大切さにも触れることができた。

④寄宿舍 地域の施設等と連携した取組

- ・寄宿舍で設定したテーマをもとに、地域の方に協力いただいた取組について報告。
- ・「社会とつながり、舎生の『知ってる!』を増やそう」をテーマとして設定した。舎生の将来がより豊かになるには、社会に参画し、楽しむことができるかが大切であると考え、テーマを設定している。舎生たちには、様々な「知らない」ことから生まれるハードルがあり、活動の範囲を自分から知らず知らず狭めていっていることもある。経験やふれあいなどを通して「知らない」を少しでも「知ってる」に変えていき、「一歩踏み出す力」をつけたいと考えている。
- ・舎生の「知ってる」をより増やすために地域の方の協力も必要であると考え、地域の方に協力いただいて様々な取組を実施した。

<活動例>

- 地域で作品展示：舎生が舎で作った作品を夏休みに高島公民館に展示し、寄宿舍を知ってもらう機会とした。
- バンド：ライブに行きたいという希望多数のため、就実大学から演奏に来ていただいた。
- インフルエンサー：生徒が憧れている方。指導員と舎生とで協力しながら芸能事務所・ご本人とアポを取り、実現できた。この活動は舎生の思いが様々な人の協力で実現した取り組みとなった。

○ボランティアとの関わり：舎の生活に入ってもらい、作品作りやヘアアレンジなど、日常の中で楽しめることを教えていただいた。また、行事をともに行うことで、より生徒のニーズに合い、盛り上がる活動にできた。

○アートプロジェクト：学校・地域など様々な人と協力して寄宿舍の看板を作製した。文化祭や市民美術展などでも協力を呼びかけた。

- ・以前は知らない活動に対して、舎生は「恥ずかしい」「興味が無い」などの意見があったが、取組後には、「またしたい!」「最高!」などの感想に変わっていた。また、舎生がやってみたいことを自ら職員に伝えてきたり、行事の実行委員会で自分の意見を出したりすることが増えてきた。
- ・今後も地域の方々の協力をいただきながら、舎生の「知ってる」が増えるよう、様々な活動を予定している。今は舎生の一人から、「ボッチャの大会がしたい」という意見がある。

⑤全体 地域の学校と連携した授業（交流学习）

- ・本校の交流学习の取組について報告。
- ・小学部では岡山市立牧石小学校と交流を実施。1～5年生はメッセージ動画等を通じた間接交流、6年生は直接交流を実施。6年生は1年生の頃から交流を行っているため、互いが相手のことを分かって活動ができている。今回は牧石小の児童が本校の児童が楽しめそうな活動を企画し、当日は野球やダンス等を一緒に楽しみながら交流を行うことができた。訪問教育の生徒もオンラインで参加。
- ・中学部では岡山市立高島中学校と交流を実施。1学期はプレゼントやメッセージを通じた間接交流。本校の教員が行った出前授業や今までの交流を参考にして、高島中学校の生徒が、本校の生徒が楽しんで使えるようなグッズを手作りし、メッセージの寄せ書きとともに届けてくれた。高島中学校では実行委員の生徒が中心となって準備を進めてくれている。12月に予定された直接交流を生徒も教員も楽しみにしている。
- ・小学部・中学部では、居住地にある小中学校で交流を行っている児童生徒もいる。
- ・高等部Ⅰグループは岡山県立早島支援学校と交流を実施。簡単なゲームを通じてお互いを知ることから始め、今後は総合的な探究の時間で学んだことを発表し合うことで相互理解を深めていく予定。
- ・高等部Ⅱグループは岡山県立瀬戸南高等学校の園芸学科の生徒と交流を実施。5・9・11月の交流では瀬戸南高の生徒から説明をしてもらいながら、寄せ植えやレイズドベッドの製作等の活動を行ったり、10月は本校が企画したデコうちわ作りを行ったりした。
- ・高等部全体で行う交流としては 創志学園高等学校看護科と交流を実施。一緒に楽しめそうな活動を本校と相手校それぞれが企画し、12月に実施予定。実施にあたっては本校の教員が事前に出前授業を行っている。生徒主体の交流となるよう、対面やオンラインで、実行委員の生徒同士が実施に向けた打ち合わせを行っている。
- ・どの交流学习でも、相手校も本校も児童生徒が主体的に取り組むことができるように、先生方が事前学習を丁寧に行っていることを感じる。今後も児童生徒が中心となった交流学习を継続していきたい。

⑥グループ協議

協議題：「地域や企業と連携した授業の意義と今後の取組について」

学校側から見た意義と地域や企業側の意義について話し合い、地域や企業と連携した授業について考えたい。また、こんな授業もできる、こんな人材がいるなどの提案や情報提供をいただきたい。

【Ⅰグループ】

- ・子供たち同士が、また、子供たちと地域の方が接することで、お互いに大きな学びがあるのではないか、本当にいい学びにつながるのでは、という意見が出た。子供たちの知りたいと

いう欲求、知的好奇心を、どんどん吸い上げていってあげること。それが実現することとていろんな興味がさらに広がっていくので、是非この取り組みをまた続けていってほしい。また、ものづくりは多少時間がかかっても障害があったとしても、物が完成する喜びということを経験することってというのは大きなことだなと感じた。

- ・本当に支援学校の子供たちの様子を見させていただいて、元気で笑顔があって喜びがあるなと。こういった子供たちが地域の方々と交流していくというのは、社会に出ていく時にも、とても大切な広がりになっていくので、さらに応援していきたいという意見が出た。

【2グループ】

- ・地域と交流する意義だが、大きくは学校内の人材だけではできない学習に取り組めるというところがあるが、その他にも2つ意味合いがある。一つ目は受ける生徒については知らないことを一つでも知っているということに変えるということで、それはとてもいいこと。地域への興味関心が高まったりとか、自分から発信したりすることでより楽しいが豊かになる。もう一つの意義としては、受ける生徒だけではなく、参加された地域の方にもいろんなメリットがあるのではないかとということで、地域の方も障害者の方を知る機会になったり、地域が障害者を受け入れる準備ができたりするのではないかとという話が出た。
- ・情報提供としては、高田さんより、いろいろな障害者のスポーツに取り組まれており、ボッチャについてもいろんな物品とか備品があり、デイサービスでもボッチャの大会をしているので、交流ができるのではないかとという意見が出た。また、学校の保護者で銀行にお勤めの方がいらっしゃるみたいで、将来お金のことって大事なので、そういう話もできるんじゃないかという話が出た。さらに、外部のいろんなサポートはやはり必要だとことで、児童院で相談支援もしているので、将来に向けていろんな福祉サービスとかその話もできるかなという話が出た。

【3グループ】

- ・地域あるいは企業側から見た意義としては、共生社会の構築・相互理解、また、社会貢献というような意義があると思う。学校から見れば、児童生徒というのは常に対教師、あとはごく限られた人としてしか関わっていないので、それ以外の方々と関わるといようなこと、それと当然ながら、経験の積み重ねができるだろうということ。もう一つ、一般的だと思うが、地域の方と交流や授業をすることによって、この支援学校の一端を知っていただくということと、バリア（垣根）の軽減につながっていくのではないかとという意見が出た。
- ・質問として、従来から支援学校などでは外部の専門家あるいは講師の方を呼んで授業を行っていたというのがあったと思うが、それと今回取り組まれた授業というのが本質的に同じなのか、あるいは違うのか。同じであれば同じでいいのだが、もし違うのであればどのような点が違うのか。

【質問への回答】

- ・基本的な流れは同じだが、過去の実組は教師が子どもたちにテーマを与えて取り組んでいることが多かったのではないかと。今、岡山支援で行っている実組では、子どもたちからテーマを引き出し、子どもたちが決めたテーマを基に探求を進めるといった、子どもたち主体の流れでいっている。そこが大きな違いであると思う。

3 今年度の実組の報告

(1) 学校評価アンケートの回収率について

- ・保護者からの回収率は90%。
- ・教職員の方の回収率は100%
- ・どちらの回収率も昨年度より上がっている。詳しい内容の分析については、次回の学校運営協議会の方でお知らせする。

(2) 文化祭の取組について

- ・本年度も岡山南高校と就実大学の協力を得てファッションショーを実施。
- ・全児童生徒からモデルを募り、参加者が決定したら、衣装のイメージを伝え合う。
- ・オンラインで生徒会生徒やモデルの生徒と南高の生徒とで打ち合わせや交流等を行った。小物の贈呈式では、衣装に合わせる小物と一緒に、モデルの生徒一人一人に手紙も贈呈いただき、笑顔溢れる贈呈式となった。
- ・ファッションショーを盛り上げる音響や照明については、就実大学から中西先生と岡田先生の協力をいただき、本校ICT専任チームとタッグを組んで、生徒が自分で操作できる音響や照明の装置を作ってくださった。

(3) 防災ワークショップの取組について

- ・10月26日(土)9:00-10:30本校体育館及び校舎2Fにて地域防災ワークショップを実施。
- ・「災害時の被害を最小限に抑えるために、『自助』『共助』『公助』についてともに学び、地域における防災力を高める」という目的で、地域の皆さんと災害について学んだ。
- ・防災講義では、学校運営協議会委員でもある旭川荘防災顧問の竹本様から、「私たちの地域で何が起こるのか」という視点で、本校近隣地域で起こるかもしれない災害について、お話を頂いた。南海トラフ地震臨時情報についての話や、動画を交えて、身近な地域に起こりうる災害の情報をどのように読み取り、生かすかという話なども頂いた。
- ・岡山市危機管理室の方からは、実際の防災バッグを使って、個々人で準備しておいた方がよいものの例を見せて頂いた。
- ・情報提供として岡山市危機管理室から指定避難所等の説明、旭川荘・療育医療センターと敬老園から福祉避難所についての説明、本校から緊急避難所としての本校の使い方等の説明があった。
- ・地域の方向けに本校の地域緊急避難所への入り口や使えるエリアを確認いただいた。
- ・地域の方からは「防災意識が高まった」「もっと地域の人が多く参加できれば良かった」等のご意見をいただいた。今年度の反省を生かし、次年度も、地域の実情やニーズに合った地域防災ワークショップを開催したいと考えている。

4 その他

○第3回学校運営協議会について

- ・開催日時や内容の確認

→これまで9:15～10:30の時間設定で開催しているが、第3回目以降は9:30～11:00に変更したい旨を提案し、承認を得る。

5 閉会

- ・たくさんのご示唆・ご助言ありがとうございました。
- ・引き続きよろしくお願い致します。

